

# こしえるびと

つむぐストーリー vol.135

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。  
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の  
メッセージをシリーズで紹介していく。

## 東山のリンゴ園

透き通るような晴天の下、春風に枝が揺れるリンゴ園。開花を待つ園地の中で、にぎやかに談笑する人々の姿がある。

げいびりんご生産組合は、長坂地区にある7畝の園地で、ふじやシナノゴールドなど9品種のリンゴを生産している。また、3種類のリンゴジュースの製造、販売も手掛け、地元産リンゴの魅力を発信している。現在は社員2人、パート5人が中心となり作業に励む。

## 喜ばれる商品作りへ

「品質と収穫量を上げるために何ができるかを常に考えている」と話すアシスタントマネージャーの及川久恵さん。JA果樹部会の先輩農家やJA園芸課の担当者などに助言を求め、日々の作業に反映させている。近年の課題であ

る温暖化と有害鳥獣の対策についても勉強を重ねる。

生産組合ではジュース作りにも力を入れる。及川さんが入社当時、商品は1種類だけだったが、「付加価値を高め、女性や家族がいる人が手に取りたいものにできないか」と考え、ふじのみのジュースなど新たに2種類を開発。さらにラベルを地元ゆかりのある若手デザイナーに依頼し、かわいらしい女の子と家族をあしらった目を引くデザインにした。新商品は道の駅やECサイトで販売している他、海外の方にも手に取ってもらえるようになった。及川さんは「お客さまに喜んでもらえるのがうれしい」と笑顔で反響を喜んで

## つながりを大事に成長したい

生産組合では、若者らが一定期間就

労、就農体験をしながら地域住民と交流する「ふるさとワーキングホリデー事業」や、子どもたちの農業体験を積極的に受け入れている。ワーキングホリデーで訪れる人は、自分たちと全く異なる生い立ちや考え方などを持っていて、コミュニケーションをとることで互いに刺激になっている。子どもたちの農業体験を歓迎するのは「大人になったときに『げいびのリンゴはおいしかったな』と思いついてもらいたい」という願いから。人とのつながりと、故郷を愛する気持ちを大切にしている。

今後は、さらに生産技術を高め商品やリンゴ園の魅力を広げていきたいと考えている。「一関のリンゴを多くの人に知ってほしい」と意気込む及川さん。産地の拡大と発展を夢見て、一致団結して歩みを進める。

# 一関のリンゴの魅力を広めたい

東山町長坂 げいびりんご生産組合



## げいびりんご生産組合

## PROFILE

東山町長坂地区でリンゴ園を営む農事組合法人。リンゴ生産やリンゴジュースの製造、販売を手掛ける。シルバー人材やふるさとワーキングホリデー制度参加者、子どもの農業体験の受け入れにも積極的に取り組んでいる。